

## 20万分の1地質図幅「唐津」

松井 和典<sup>1)</sup>・宇都 浩三<sup>2)</sup>

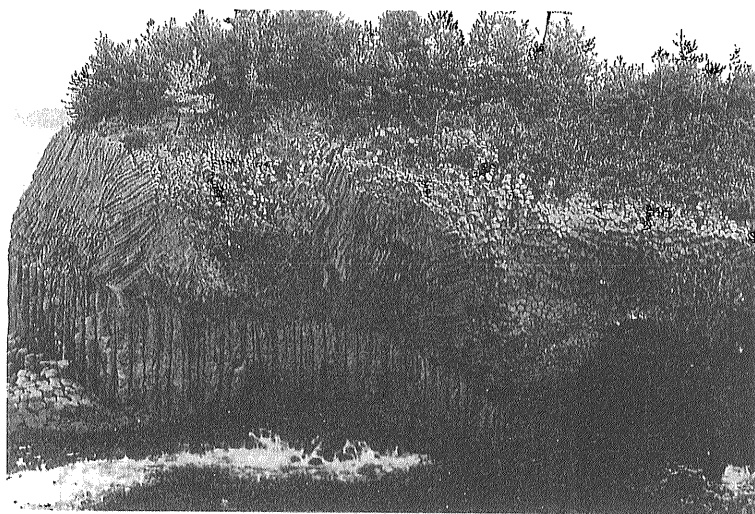
20万分の1地質図幅「唐津」地域は魏志倭人伝の昔から大陸と交流のあったところで、渡来人が朝鮮半島からこの地を経て邪馬台国に至ったとされています。この「唐津」地域では、東松浦、北松浦の両半島の北に玄界灘の海が広がっており、壱岐島、平戸島を含む大小多数の島が浮かんでいます。行政上は長崎・佐賀両県にわたります。この図幅内には、玄海国定公園の数々の景勝地、史跡が存在します。例えば、図幅北東端の唐津市の海岸に弧状に広がる見事な虹の松原、東松浦半島北端の呼子町の七ツ釜海岸を作る天然記念物の溶岩流柱状節理(第1図)、豊臣秀吉の朝鮮侵略の際の拠点であった名護屋城跡などです。

九州北西端に位置するこの地域では、白亜紀の花崗岩および第三紀の堆積岩類が隆起侵食を受けて比較的平坦な台地を作り、その上を覆うように新

第三紀から第四紀にかけての火山岩類が分布しています。壱岐を含む大小の島々は、一部を除き殆どが火山岩類よりなっており、例外的に壱岐島の北西部に中新世の堆積岩である勝本層群が分布します。

白亜紀の花崗岩類は、黒雲母角閃石花崗閃緑岩、トータル岩、黒雲母アダメロ岩であり、東松浦半島に広く分布しています。これらの花崗岩類の活動年代は、約9,000万年前です。

古第三紀-中新世前期(4,000万年前-1,600万年前)の堆積岩類は、浅海-汽水-淡水性の砂泥岩互層を主体としており、一部に凝灰岩を含みます。また、多数の石炭層を挟んでおり、かつては佐世保炭田、唐津炭田として多数の採鉱が行われ、日本の経済発展に貢献しましたが、現在は廃坑となっています。



第1図 天然記念物に指定されている七ツ釜の柱状節理。300万年前のアルカリかんらん石玄武岩溶岩流。

1) 元所員, 現(株)ダイヤコンサルタント  
2) 地質調査所 地殻化学部

キーワード: 地質図幅, 唐津, アルカリ玄武岩, 石炭, 白亜紀花崗岩, 第三紀堆積岩類

中期中新世(1,500万年前-1,600万年前)の火山岩類は、平戸島と壱岐島に溶岩流および火砕岩として分布するほか、東松浦半島に岩脈群として分布します。これらの火山岩類のうち、平戸島に分布する平戸島火山岩類、東松浦半島の岩脈群はサブアルカリ岩質な安山岩-デイサイトですが、壱岐島南東部にわずかに分布する凝灰角れき岩は、サブアルカリ岩質な玄武岩です。これらは、日本列島が中国大陸から分離移動して日本海が形成された時に噴出した火山岩類です。壱岐島の玄武岩の上には、湖に堆積した凝灰岩質のシルト岩があり、魚、蛙、昆虫、植物などの化石が多数含まれています。

一方、日本海の形成後の中新世後期(600万年前-900万年前)には、北松浦半島から生月島にかけてアルカリ岩質玄武岩の溶岩流が広く噴出し、平坦な溶岩台地を形成しました。これらは、北松浦玄武岩類と呼ばれています。かつて、これらは割れ

目噴火により短時間の内に広範囲に流れて溶岩台地を形成したと考えられていました。しかし、最近のK-Ar年代測定の結果、地域毎に噴出年代が900万年前から600万年前の範囲で系統的に異なっていることが判明しました。同質の玄武岩は、壱岐島北東部にも部分的に分布しています。その後、壱岐島では、500万年前から100万年前まで断続的に火山活動が起こりました。その大半はアルカリ質玄武岩-粗面安山岩ですが、一部にサブアルカリ質玄武岩-安山岩および流紋岩が分布します。一方、東松浦半島および周辺の島々では、約300万年前にアルカリ玄武岩あるいはその分化物である粗面岩、流紋岩が短時間に噴出する火山活動がありました。これらの玄武岩類は、東松浦玄武岩類と呼ばれており、しばしばマントルから運ばれてきたかんらん岩塊が含まれることで有名です。

第1表 新生代層序総括表.

時代		地域	壱岐	東松浦半島	北松浦半島	生月・平戸島	
第四紀	完新世 (Ma)		埋立地・礫層・沖積層・海浜堆積物				
	更新世		新期玄武岩類 (島の止、津の上山等) 新期粗面安山岩				
新第三紀	鮮新世	後期	壱岐層				
		前期	中期玄武岩類 中期流紋岩類	加磨島・松島粗面岩 馬渡島粗面安山岩 馬渡島流紋岩 東松浦玄武岩類			
	中新世	後期	古期安山岩・粗面安山岩類 古期流紋岩類 古期玄武岩類				
		前期		貫入岩類	北松浦玄武岩類	北松浦玄武岩類	
	古第三紀	漸新世	中期	最古期玄武岩類			
			前期	勝本層群	岩脈		貫入岩類 平戸島火山岩類
			野島層群		平戸層		
古第三紀	始新世	前期					
		中期					
		後期					
		最末期					